

【復興支援道路】

一般国道340号立丸峠工区のトンネル銘板お披露目式を開催

～ 立丸峠工区のトンネル名称が決定し宮古市立川井小学校児童が書いた銘板が完成 ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

県が「復興支援道路」として遠野市土淵町栃内～宮古市小国間で整備を進めている一般国道340号立丸峠工区については、現在、2箇所のトンネル工事等を進めています。

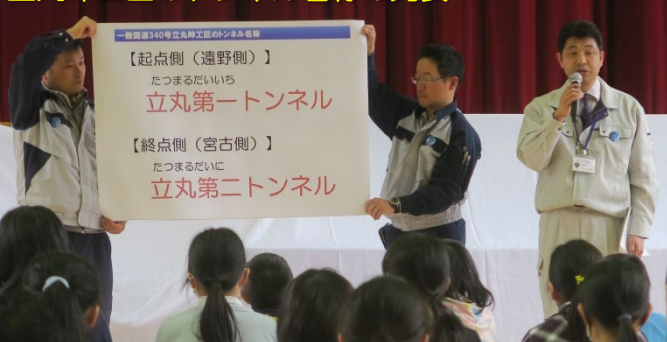
県では、立丸峠工区のシンボルでもある2箇所のトンネルについて、遠野市及び宮古市の意見等を踏まえ、起点側（遠野側）の（仮称）大峠トンネル（L=1,839m）を立丸第一トンネル（たつまるだいいちトンネル）、終点側（宮古側）の（仮称）小峠トンネル（L=920m）を立丸第二トンネル（たつまるだいにトンネル）に決定しました。これは、立丸峠には「大峠」、「小峠」の2つの峠があり、それぞれの峠を貫く両方のトンネルに「立丸」の名称を入れたい、という地元の意見等を踏まえて決定したものです。

宮古側の立丸第二トンネルは、トンネル本体工事が概ね完了し、銘板を取付ける段階まで工事が進みました。立丸第二トンネルの銘板は、地域の将来を担う宮古市立川井小学校児童の皆さんに文字を書いていただき、この度、銘板が完成したことから、川井小学校体育館でお披露目式を開催しました。

お披露目式には、県、遠野市、宮古市、川井小学校児童、地域住民等約100人が参加し、県から立丸峠工区のトンネル名称を発表した後、銘板の文字を書いた川井小学校6年生の児童5人と関係者で除幕を行い、完成した立丸第二トンネルの銘板が姿を現しました。

銘板の文字を書いた川井小学校児童からは、「最初の着工式から最後の貫通式までトンネル工事に関わらせていただき、とても嬉しかったです。自分も一緒に作っているような気になったからです。このトンネルの文字を書けたことを光栄に思います。復興や発展にこのトンネルが役立つことが楽しみです。」と感想を発表していただきました。

立丸峠工区のトンネル名称の発表



立丸峠第二トンネルの銘板除幕



終点側（宮古側）トンネル銘板



川井小学校児童の感想発表



お披露目式終了後には、立丸第二トンネルが末永く地域で親しまれるトンネルになることを期待して、完成した銘板の裏側に川井小学校児童や地域住民の皆さんにメッセージを記載していただきました。このメッセージは、立丸第二トンネルとともに、地域の中で末永く残り続けます。

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、本格復興をやり遂げ、次につながるよう強力で復興を推し進めることとしており、立丸峠工区については、立丸第二トンネルを含む宮古側の小峠工区 1.7km について、平成 28 年度の供用開始を目指して工事を進めています。また、遠野側の立丸第一トンネルについても、引き続き、トンネル掘削工事や道路改良工事を推進し、立丸峠工区の早期全線供用に向けて全力で事業を推進して行きます。



【立丸峠工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しており、一般国道 340 号立丸峠工区は、三陸復興道路整備事業の「復興支援道路」に位置付け、県が重点的に整備を進めています。

